

司会： Enjoy★なかはら

みなさんこんにちは。『Enjoy★なかはら』のお時間です。

中原区の話題をゲストの方と共に送りする番組です。街は、私たちの生活を支える舞台でもあり、優しく包むゆりかごや夢を育む故郷でもあります。街の過去・現在・未来を通して、様々な角度から街の魅力を発見していきたいと思います。

お聞きの放送は、川崎FM79.1メガヘルツ、中原区小杉町のスタジオから生放送でお送りしております。さあ、『Enjoy★なかはら』、放送時間は毎月第1・第3金曜の午前11時から30分までの番組となっております。この番組の担当はポマーレそりまちです。エンジョイ中原、この番組は、中原区内のあらゆる情報を発掘・配信する「なかはらメディアネットワーク」の提供でお送りいたします。

司会： さあ、『Enjoy★なかはら』のお時間でございます。今日はゲストの方にお越しいただきました。丸子玉川リハビリクラブ代表の渡辺恵子さん、そして理事の渡辺政勝さん。そして、中原区役所からは海藤明恵さんにお越しいただきました。皆さん、よろしくお祈りします。

3人： よろしくお祈りします。

司会： さて、字で書きますと丸子玉川と書いて、「玉川」の部分で「ぎょくせん」と読むんですね。まず、丸子玉川リハビリクラブとはどういうものなのかをお聞かせ願えますか？では、理事の渡辺けいこさん

恵子： 脳血管障害者の行き場所です。うちの中に閉じこもりきりになりますと、今でいう認知症になりやすいし体も利かなくなりますので、みなさん集まってみんなで何かしましょうということで始まったことなんです。

司会： いつぐらいに発足されたんですか？

恵子： 平成4年4月17日です。

司会： かなり歴史のある・・・

恵子： そうです。今年は25年目です。私がいろいろなボランティアをやっていたんです。川崎市のホームヘルプの研修講座が始まって、それが平成8年に・・・

司会： クラブとしては長い期間があってスタートして・・・ここに参加できる方はたくさんいらっしゃるんですか？

恵子： 前はたくさんいらっしゃったんですが、亡くなられたりして最近は人数減ってしまいました。

司会： 今、どれくらいの方が顔を合わせてるんですか？

恵子： 18人くらいです。

司会： そうですね。そういう方の行き場所、集える場所があるということは大きなことですね。

恵子： みなさん、そういう場所でおしゃべりしたり、体操したり。私は頭の体操として手話コースを取り入れています。歌を手話でやります。楽しいです、とっても。他で習ってきたのを皆さ

んにやってもらっています。皆さん、楽しんでます。

司会：そうですね。海藤さん、中原区役所、行政としても何かバックアップをされているんですか？

海藤：立ち上がりに関しては、皆さんご自身で、恵子さん政勝さんご自身で立ち上げておられるので、行政としての関わりはここ数年です。地区で活発に活動されているというところで、行政としても、昨年度「地域みまもり支援センター」という新しい部署を立ち上げておりますので、「地域包括ケアシステム」ということで力を入れて取り組んでおります。地域の皆さんが、住み慣れた場所で安心して暮らしていくためにというところで、「自助・互助・共助・公助」、中でも「自助・互助」といった一人一人の個人での取り組み、グループさん同士のお互い近所同士の取り組みに、みなさん力を入れて取り組みたいということになっていますので、皆さんにこういうラジオの形で広報ですとか健康に関することのチラシをお持ちしたりと、バックアップをしている形です。皆さんご自身で活動しているというところでは、区役所としては出来上がっているグループさんなので、そこまで手を貸すということではなく、ご自身で取り組まれているところと一緒に関わっていくという形で関わらせていただいております。

司会：理事の渡辺正勝さん、今、ご自身で発足されたとうかがいましたが、限界がありますよね。行政のちょっとしたバックアップでも助かりますよね。

政勝：今、介護保険が大きくまた変わろうとしています。この会ができたのは介護保険ができる前で、障害者を月1回区役所で集めてリハビリをやって来ていたんです。ところが、1回じゃ物足りないものですから、仲間をつのってこの会を作ったんです。その指導は、溝口のリハビリ教室の先生、りっぱな先生がやっていた所にずっと通っていて、彼女が自分たちの地域にもたくさんいるけど、溝口まで行かれないから自分たちの地域にも作りたいということで作って。私の近くの人は、ずっと車椅子で8年も寝たきりだった人も、私が車椅子で送り迎えをして、それから始めたんです。

司会：その方にとっても、1つまた世界が変わったようなものですよ。外に出られるということは。こういうクラブを発足しました。発足したのはいいですけど、是非利用してくださいという広報もしないといけませんし、地道に長い時間をかけてやってこられたんですね。集まった方たちが喜びの場所としてみんな笑顔になることもやりましょよと、いろんな企画立てもしてるんでしょうね。どんなことをしてきました？

恵子：主な行事としては、年2回のバス旅行なんです。1回は日帰りでいちご狩りをやります。あと一回は市の福祉バスを借りての一泊の旅行をします。それが、皆さん本当に楽しみなんです。

司会：辛いことなんて忘れてしまうんじゃないですか、皆さん。春になって暖かくなってきましたので、4月は何かあるんですか？

恵子：4月は別にありません。いちご狩りは2月に終わりました。今度の一泊は6月です。サクランボ狩りして帰ってきますので、それがまた楽しいんです。

司会：そういう表に出かけることで、違う世界を見ることで大きく変わる部分もあるんでしょうね。

ではここで、一曲流したいと思います。この「四季の歌」はどちらのリクエストですか？

恵子：毎月の集まりの中で手話コーラスをやっていて、最初から好きな曲で・・・

司会：もしかして、手話でできるんですか？音楽をかけますので、ちょっとだけ見せてもらってもいいですか？芹洋子さんで「四季の歌」

～ ♪曲♪ ～

司会：恵子さんに手話をこの歌に合わせてやっていただきましたけども、それに合わせて政勝さん
もできるんですね。我々は習ったこともないですし、どこがどういうふうに表現されるのか
と思ったら、見た感じでいうと、何となくこれはこういうことを言ってるんだなとわかりま
したね。女の人を表現するときには、よく使う小指で表現するんですね。ただ、恋人とお母さ
んが同じ小指ですが、どこで見分けるんですか？

恵子：母親の時は、ほっぺチュ。これが母親。

司会：恋人の時は、ただの・・

恵子：恋人は、これでハートのマークを作ります。

司会：これ、間違えたら大きな間違いになりますね。いろんな表現、指を使ったり、体を使ったり、
腕全体を使ったりするのがわかりましたけれど、1つ1つ覚えるのは結構大変だったんじ
ゃないですか？

恵子：大変ですね。

司会：曲に合わせてとなると、スピードもありますし、何曲位できるんですか？

恵子：ずいぶんやりました。

政勝：20年間、毎年二曲ずつですから。毎年、中原の福祉まつりのオープニングで、皆さんちゃん
と衣装を着てやります。それから年に一回、麻生区のふれあいコンサートというのがあ
るんです。市民館で麻生区のグループと一緒に舞台の上でやります。そのために、1年間練習しま
す。これが脳を使うんですね。体と脳を両方使うので、障害者に有効なりハビリの一つです。

司会：手、そして指先まで、細かいところまで使うんですもんね、手話は。今見ていると。今後の活
動をどういうふうに展開していきたいというのがありますか、恵子さん。

恵子：みなさんが、当事者もボランティアも高齢になってきましてここへきて無理が出てきたんで
すよね。送迎が必要なんですけど、行政でやっていただくこともできませんので、大変です。

司会：送り迎えですね。今はそのところはどういうふうにしてるんですか？

政勝：一番大きな問題は、こういう人たちは介護保険の中で、軽い人は市の総合事業でデイサービ
スやなんかやりますね。こういう人たちは、そこに行かれる人が少ないんです。行かなくて
も、こういうグループさえあれば、そちらの方が楽しくて、旅行もできるし、週4回ふれあい
があります。

司会：移動手段がない方にとっては、行きたい気持ちだけではいけないですね。

政勝：これからの問題としては、そういう人たちは、病院で例えば脳こうそくの人が加療が終わっ
て出てくると、すぐ介護保険の方にケアマネさんがつないでいくわけです。そうすると、こ
ういうグループに入ってくる人が少ないんです。考えてみれば、介護保険の方があらゆる保障
がありますね。お金はかかるけども。自分たちで保険をかけて、自分たちの自己責任でやっ
ていますから。どうしても病院から出てくると、ケアマネさんがその人たちを介護保険につ
ないでいくんです。実際には、こういうグループの方が楽しいですよ。そのところがこれ
からの大きな課題です。こういうことができれば、地域の人がお互いに支え合うことができ

れば、介護保険にかからなくても。介護保険の方は、今、大きな岐路に立ってますよね。お金の問題と人の問題とね。

司会：やっぱり、いろんな思いはあるかと思うんですけども、楽しい時間はみんなで共有していたというのは1番でいらっしゃるかと思うんで、是非そういうことができやすい環境づくりというのは、みなさんの力では限界があるわけですから、頼れる場所に頼る。それが行政なのかどこなのかわかりませんが。

政勝：それから、カラオケやってるんです。こういう人の中に、言語障害の人がいて、言語障害の人でも得意な歌は普通の人と同じ。これは、リハビリの先生に聞いても理由がわからない。だけど、その人たちはカラオケが1番楽しい。というのは、コミュニケーションができませんから、歌だったら皆さんに聞いてもらえる。だから、どんなに雨が降っても雪が降っても、必ずカラオケは休まず来るんです。

司会：なんか、ふしぎなものですね。

政勝：それだけは不思議です。

司会：カラオケとか体操とかゴルフとか、こまごまと行事じゃないですけども、カリキュラムといまishょうか、そういうものが用意されているということですよ。参加したい方は、どうすればいいですか。

恵子：私の方に連絡下さればいいんですけども。

司会：連絡先とかっていうのは、どこかにお問合せありますか。

恵子：電話番号は、422-2014渡辺と申します。

司会：044-422-2014の渡辺さん。代表の渡辺さんですね。こういう所に参加したい興味があるという方は、是非ご連絡してみてください。今日は、丸子玉川リハビリクラブの活動の様子を中心にお話をうかがっておりますが、さて、もう1曲お送りしたいと思うんですが。今度は政勝さんのリクエストになるんですかね。森山良子さんの「今日の日はさようなら」をお送りします。

～ ♪曲♪ ～

司会：「今日の日はさようなら」森山良子さんの歌声でお送りしましたが、先日行われた2月のいちご狩りでは大変なことがあったみたいですね。今となっては、ちょっとした笑い話になるかと思いますが、片道12時間もかけてバス旅行に行たんですか。どこまで行かれたんですか？12時間あったら結構遠くまで行きますよね。どこだったんですか、場所は？

恵子：場所は、静岡県の久能山なんですけども・・・

司会：静岡でしたら、12時間もかからないですよ。

恵子：おかしいですよ。

司会：なぜ、こんなことが起こったんでしょう？

恵子：前の晩に降った雪が凍結して、東名が通行止めになっちゃったんです。

司会：厚木を超えて、すぐ辺りですか？

政勝：大井松田。

司会：大井松田！

政勝：大井松田から下へ小田原へ出て、箱根を超えてまた沼津から東名に入ったものですから・・

司会：そうになっているということは、みんな一般道に迂回してるということですよ。みなさんの乗ったバスだけではないんですよ。

恵子：どこの道行っても混んでました。

司会：皆さん、12時間もよく体力が持ちましたね。でも、これはこれでまた、その時は大変だったでしょうけども、これは1つの思い出ですね。

さあ、今日は丸子玉川リハビリクラブのお話をうかがってまいりました。ご出演が丸子玉川リハビリクラブ代表の渡辺恵子さん、そして理事の渡辺政勝さん、そして中原区役所地域みまもり支援センター地域支援担当の海藤明恵さん、お三方にお越しいただきました。皆さん、ありがとうございました。

3人：どうもありがとうございました。

司会：さあ、「Enjoyなかはら」いかがだったでしょうか。今日は、丸子玉川リハビリクラブについてご紹介いたしました。「Enjoyなかはら」この番組は、中原区内のあらゆる情報を発掘・発信する「なかはらメディアネットワーク」の提供でお送りしました。